

曾於文藝

うたごよみ

題 字

末吉文化協会会員 瀬戸口 淳民氏

俳句

末吉俳句会

存在を水に広ぐるあめんぼう

永里 瑞代

風に向き風に逆らふあめんぼう

西村 セツ

濃紫目差しぬ奥の花菖蒲

堀之内 美喜

大陽俳句会

ドクダミや幼馴染みと訪ふ在所

岩重 みどり

どの彩の香となく薔薇の香であふれ

鍋山 美智子

イルカ跳ぶ青葉の島を見下ろして

福村 よう子

短歌

末吉短歌会

洗い桶を漂流したる青虫が
放ししキャベツ食み継ぐ夕べ

泊 康

ポラリスのローマ教皇ついに逝く
踏み込む平和を誰か接ぐべき

大森 巳喜生

薫風も憂さも丸呑み揚々と
メタボの鯉は碧空駆ける

平田 美穂子

大陽短歌会

願わくば背に大きなネズをつけ
とつとつとと坂上りたし

川辺 敦子

桜散り百歳過ぎて叔母は逝く
杖つきながら子らが見送る

北村 弘子

アイタタタ遅れ来たれる五十肩
鏡の中の顔がくずれぬ

西山 美代子

財部短歌会

嫁とゆく曾孫誕生大阪へ
駅のひとつ波にしたがひ歩む

井上 澄子

またひとつ時間に溶くる悲しみの
おぼろになりて初夏の陽あぶる

脇丸 洋子

満開の花と青空浮かぶ顔
共に見上げた瞬間偲ぶ春

坂元 淳子

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

梅雨時つ テルテル坊主も
能をうたじ

西留 辰子

古古古米 今年田植も
家族揃つ

山中 ミツどん

梅雨時つ 蟹ずい座中け
上い込ん

胡摩ヶ野 べぶまつ

里戻い 沢山の馳走
焼酎も添え

高瀬 夜舟

御馳走食べ 家族揃遠方で
美味料理

浜田 一好

突然会た 友人の名があらじ
元気じゃね

桐野 奈世